―持って来ましたよ。
―有難う　ウム・・。
―ペペ、私はペペ レイと言います。
―貴女のお名前はどこかで聞いたことがあります..。
―私は私立探偵です。時々新聞に名前が出ますよ。
―多分そのお立場でお出でですね。
―もしかしてヘスス オネトをご存知です？
―ええ、彼を知っていますよ。先日亡くなったと。私にはとても魅力的でした。私にはとても素敵な方でした。お気の毒に。
―ええ、とても恐ろしいことです。インタビューは短かったですか？
―お食事をご一緒しました。私の家も訪ねてくれました。この近くに小さな別荘を持っているのです。私はインタビューを受けました。いつものことで、私のミスとしての人生、元ミスとしての人生、私の愛人、私の前夫達、私と貴族との関りの数々、私の趣味、そして典型的な質問、どうやって暮らしているのですか？
―どうやって暮らしているのですか？
―ほら、つまらない（鼻ぺちゃさん）ロ―ラは少しイラついて言った。とても簡単なのです、何人もの夫はお金持ちで、毎月お金を渡してくれます、何人ものインタービャーは私にお金を払ってくれます、服を脱がす写真を撮ったり、新しい恋人と一緒のね・・。そのように、お金が入ってくるのです。